

経済財政改革の基本方針 2008

～開かれた国、全員参加の成長、環境との共生～

平成 20 年 6 月 27 日 閣議決定

(航空部分抜粋)

第2章 成長力の強化

1. 経済成長戦略

Ⅱ グローバル戦略

②開かれた経済のインフラ強化

i)「空」の自由化(便利な空港、開かれた空路)

平成 20 年以内に航空自由化工程表を改定し、内外の利用者が便利になったと実感できる、世界に遅れをとらない「空」の自由化(便利な空港、開かれた空路)を集中的に進める。首都圏は、羽田を世界に開き、成田と一体的に 24 時間運用して、国際航空機能を高める。羽田からアジアの主要都市への路線を早期に実現する。

○2010 年の新滑走路等の供用開始当初に、羽田は昼間約 3 万回、深夜早朝約 3 万回(合計約 6 万回)、成田は約 2 万回の合計約 8 万回の国際定期便を実現する。2010 年以降の方向性については、羽田は国内線需要に適切に対応しつつ、国内・国際双方の需要の伸びを勘案し、昼間は、羽田のアクセス利便性をいかにする路線を中心に国際線の増加を推進し、深夜早朝は世界の主要都市への就航により、首都圏全体の国際航空機能の 24 時間化を実現する。

○首都圏全体で、2010 年以降、約 17 万回の発着枠の増加により年間発着枠約 70 万回を実現し、さらに、あらゆる角度から可能な限りの空港容量拡大施策を検討する。

○関西国際空港・中部国際空港について、アジア各国との間で航空自由化を推進し、国際競争力の強化を行い、あわせて、24 時間化を促進する。

(2)開かれた経済のインフラ強化

A 「空」の自由化

国土交通省は、「空」の自由化を推進するため、平成 20 年中に航空自由化工程表を改定する。具体的には、以下の施策に取り組む。

(ア)首都圏空港(成田・羽田)における国際航空機能の拡充

- ①2010 年の新滑走路等の供用開始当初に、羽田は昼間約 3 万回、深夜早朝約 3 万回(合計約 6 万回)、成田は約 2 万回の合計約 8 万回の国際定期便を実現する。昼間(6 時～23 時)に、羽田にふさわしい近距離アジア・ビジネス路線として、ソウル、上海等の都市、さらに、北京、台北、香港まで就航していくこととする
- ②成田では 6 時台の出発、22 時台の到着がないこと等を踏まえ、羽田において、深夜早朝(23 時～翌 6 時)に加え、6 時台・22 時台についても、成田と羽田の国際航空機能をリレーするための時間帯(リレー時間帯)として国際線の就航を可能とすることにより、欧米をはじめとした世界の主要都市への就航を実現する
- ③2010 年以降の将来の方向性については、羽田は、国内線需要に適切に対応しつつ、国内・国際双方の需要の伸びを勘案し、昼間は、羽田のアクセス利便性をいかせる路線を中心に国際線の増加を推進し、深夜早朝は世界の主要都市への就航により、首都圏全体の国際航空機能の 24 時間化を実現する
- ④首都圏全体で、2010 年以降、約 17 万回の発着枠の増加により年間発着枠約 70 万回を実現し、さらに、あらゆる角度から可能な限りの空港容量拡大施策を検討する
- ⑤時間帯別料金制度を始め貴重な発着枠を有効活用できる多様な仕組みについて十分検討する
- ⑥成田新高速鉄道の整備や接続する鉄道を活用し、両空港間のアクセス改善を図る

(イ)航空自由化の推進

2007 年 8 月以降、韓国、タイ、マカオ、香港及びベトナムとの間で合意したことに続き、他のアジア各国との間でも、同様の航空自由化に合意できるよう努める。また、欧米との間でも、様々な課題はあるが、欧米の動向を見極めつつ、自由化に向けて交渉を行う

(ウ)地方の「空」の改革

国が管理する空港については、平成 20 年度内を目途に共通的な経費の取扱い等技術的な課題を整理し、早期に空港別の収支の開示を検討する。地方公共団体が管理する空港についても、国における検討を踏まえ、空港別の収支の開示を検討するよう要請する